

No. 45

2000

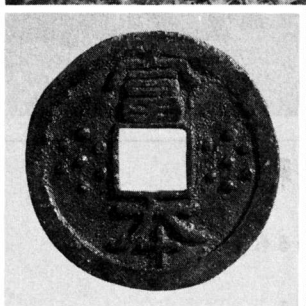
2月1日発行

萩の郷

発行者
下市田区

発行責任者
富田隆仁

印刷
下市田・キタバヤシ印刷



富本銭の里をあるく 10月31日

下市田ぐるりウォーキング



詳細は5面に掲載



区の情勢について

区長 富田隆仁

より平成十二年に一期、工事が終了します。公共下水道処理場の工事費十八億円で神橋建設・

平成十二年の新春を迎えました。歴史的にも記念すべき二〇〇〇年今世紀最後の幕あけです。今世紀は戦争、食糧問題、民族争いと決して平和な時代でなく、本年こそは二〇世紀のしくくりとの年として、平和で落ち着いた、穏やかな年の始めとなります様祈念致します。

区内の出来事については区報にて報告をして参りましたが、今回は特に関心のある公共下水道について報告致します。写真を参考にして下さい。平成九年に始

委員会活動報告

“ゴミ”を減らしましょう

環境衛生委員会 木村 勉

環境衛生委員会では、昨年の五月・七月・九月・十一月と、出砂原地区は毎月ですが廃棄物の収集をしました。各収集する月別によって出る量がちがうと思いましたが、特に夏場九月では、暑い日々が続いたのでしょ

うか、大変な量の“ゴミ”で、集ステーション周辺の清掃



様の協力により、全面的に解決致しました。本年度工事が始まります。

下市田駅前信号機、区内への特定郵便局の設置等々関係方面の協力を頂いて進行中であります。区民皆様の御協力をお願い致します。

分別にも苦労しました。夏まつりとか各部落の行事、灯笼流し等々

“ゴミ”の出る時期でもあったと思われま

数回の委員会を開き各地区での問題点、主に分別に付いての話を多く使ってきました。五月春季清掃に伴い床下消毒用薬剤、スミチオン粉剤の配布、各収集ステーション周辺の清掃

下市田区慶弔規程

(趣 旨)

第1条 この規程は、慶弔を表する範囲及び方法を定めるものとする。

(範囲及び方法)

第2条 範囲及び方法は、以下各条に規程する通りとする。

(弔慰金)

第3条 区民の中で、世帯主又は過去に世帯主であった者が死没した場合は、次の区分により弔慰金を贈る。

- (1) 一般は、2,000円。
- (2) 過去に区の役員を勤めた者は、3,000円。
- (3) 現職中の区の役員及び過去区の運営に特に貢献した者、又は儀礼上必要な人については、区長・副区長・会計・代議員会長・当該部落長(以下慶弔委員という)の協議を経て特別な弔慰金を贈ることができる。

(慶祝金)

第4条 区民又は区内の団体で、特に慶祝の意を表すべきときと区長が認めたときは、区長は慶弔委員の協議を経て金品を贈り慶祝することができる。

(見舞金)

第5条 区民及び区内の団体(企業等)が不測の災害を被った場合、又は公職にある者が病気等で、区長が必要と認めたときは慶弔委員の協議を経て適当な方法で見舞をすることができる。

(補 則)

第6条

- (1) この規程に定めない事項でも区長が必要と認めたものは、慶弔委員の協議を経て定める事ができる。
- (2) この規程での区民とは、区内に居住し、区より課せられた義務を全て果たしたものである。

附則 この規程は、平成11年9月8日施行



まだ使える物が多い

区有林からの門松取り廃止と 各地区のほんやり

育成会 加山 秀世



本年も子ども会、育成会を宜敷くご支援下さい。

一年の始めに、その年の豊作と家族の幸福を約束してくれる年神が山から降りてくるときに、目標として家に入る前にいったん留まってもらうための依代として松を立てるのであり、昔から天からの神は常に緑の木や草花に宿ると信じられていた。ほんやりの火で焼いた餅を食べるとその一年病気をしない。ほんやりの火にあたると若返る。ほんやりの松の焼け木を家の屋根に投げ祈ると火事にならないとかいろいろな言い伝えがある。どれにしても無病息災を祈願する意で

あやかってみない。今年から区有林からの門松取りが廃止となった。長年、暮れ近くなると林務員の世話でご神木、門松、ほんやりの松の下枝と区の役員、中堂生、PTA役員、育成会の大勢で現場は賑やかであった。しかしそんな情景が再現される日はいつの事であろうか。伐採後地に速やかな植林をし、太く青々と茂る区有林としたいものである。今年、ほんやりの規模が縮小するかと心配していましたが、三区の橋都正さんのご厚意で各区とも沢山の杉枝をもらい受け、ほんやりに十二分役立たせて頂きました。厚くお礼申し上げます。

どの区も子ども会を中心に、大勢の地域の皆さんの参加の報告がありました。(土、日、成人の日で点火は異なる) 一区北は七日、参加者四十名。一区南は七日、六十名。二区は十日、七十名。三区は九日、百六十名。四区は九日、四十名。五区は九日、六十名。六区は七日、百四十名。

写真家唐木孝治さんの 受賞とお祝いの会について

下市田四区の写真家、唐木孝治さんが、昨年『伝統文化賞』という栄えある賞を頂きました。

この伝統文化賞というのは、社団法人民族衣裳文化普及協会が、その年『伝統文化の普及に努めた』という評価によって、全国を対象として選ばれ、ちなみに一昨年は、女優の岩下志麻さんが受賞したという、権威ある賞です。

今回、受賞の対象となったのは、昨年、信濃毎日新聞社から出版された写真集『人形芝居の里・信州伊那谷』の刊行と、それに至るまでの活動に対してという事で、特に上・下伊那全域にわたって、埋もれたままになっていた人形の頭を採り出して撮影されてきた、十七年にも及ぶ業績が高く評価されたものです。

この受賞を、地元民としてお祝いしようということ、お住まいの新



表彰式ロビーに展示した人形芝居の写真作品

午後三時からの会には、下市田の富田区長さんも駆け付けて下さり、お祝いの言葉を頂く中、祝宴に移り、賑やかに、なごやかに、時のたつのもわすれる楽しい

井地区を中
心とした実
行委員会を
した。

つくり、四区内に呼び掛けるところ、四十名近い人たちが集まり、そのお祝いの会が、昨年十二月十九日午後、四区生活センターに於いて開催されました。

ひととき
となりま
した。



三笠宮妃百合子殿下(中央)の
向かって右後で記念写真に納まる
唐木孝治氏

しい会を開くことが出来た唐木孝治さんに感謝しながら、一層のご精進とご発展をお祈りし、午後五時万歳三唱でお開きとなりました。一番身近な部落の人たちが、このように大勢参加したということは、そのお仕

下市田区民会館使用細則

平成九年四月八日制定

- 一、下市田区民会館(以下区民会館という)は、下市田区民(以下区民という)共有の財産であることを再確認し、施設器具等を大切に取り扱い、長く保持できるように全区民で協力し、維持費は極力低減をはからなければならない。
- 二、使用時間は、原則として午前八時より午後十時までとする。
- 三、室内は禁煙とする。喫煙は、喫煙コーナーに限る。
- 四、館内の施設備品什器等は、大切に取り扱い、万一損傷した場合は速やかに管理者に報告しなければならない。場合によっては、弁償の責めを求めることもある。
- 五、室内での飲食の場合は、特に注意し、畳・床面を汚さないような配慮をすること。
- 六、水道・電気・ガス、冬期の暖房使用後の始末は完全にを行うこと。
- 七、使用後の片付けは、使用者全員の責任として完全にを行うこと。
- 八、使用簿は、必ず記載すること。

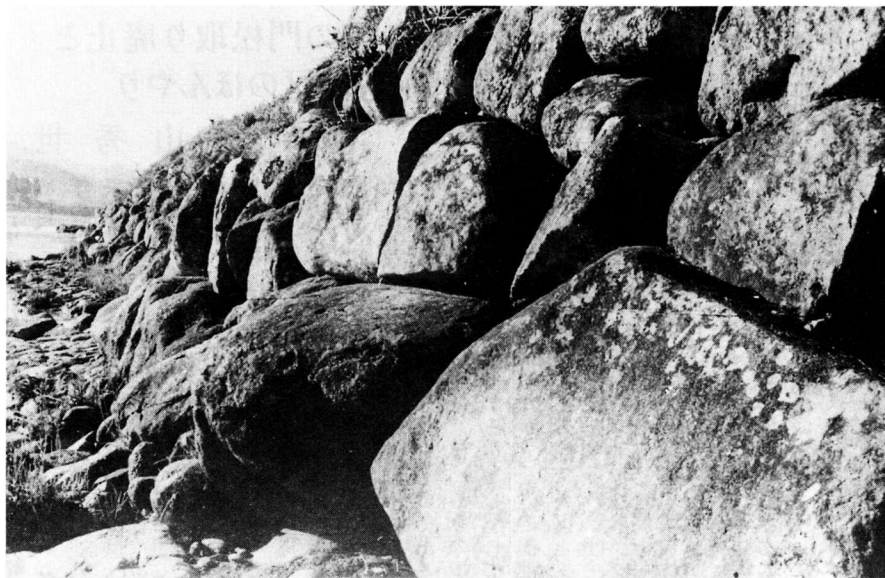
史跡を探る

史談会会長 手塚友逸

下市田には文化財としての史的資源などどのようなものがあるか、その一部に過ぎないが探って見たいと思う。

「原始時代」又は「縄文

縄文時代から「古代」と



惣兵衛堤防の乱れ積

いわゆる「弥生時代」に入ってきたと、中国大陸から「農耕文化」がどんどん入ってきたと農耕技術は進歩し「農耕文化」は急速に進歩する。

木製農耕具から金属製耕具の発達となり「金属文化」の時代へと移っていく。農耕の発達はやがて条件のよい土地を獲得しようとする「農地拡張競争」が始まり、その競争の過程において大きな差を生じ、権力者の存在をゆるすことになり、貧富の差が生じ、豪族の誕生となり地域の支配者となって来た。

この偉大なる権力を持った豪族の死によって葬られる墓は、小規模なものから、壮大なものに到る遺跡は古墳として現存し、当時を「古墳時代」として発掘調査などによって当時の埋葬者の様子を伺い知ることができ

る。この下市田で特筆されることは、古墳が非常に多いことである。その古墳の一つである武陵地一号墳より日本最古の「富本銭」が出土していたことである。なぜここにあったのか今後

その解明が急がれている。古墳時代を過ぎ、飛鳥、奈良、平安時代のころ、陸奥の安部貞任の末裔といわれる仙千代が乳母に抱かれて逃れ、牛牧へ居を構え住みつき郷民に推されて地頭となるが、上市田へ移り住む。これが「古城」である。松岡城が築かれたのは南北朝から戦乱相つぐ鎌倉時代であろう。これが現在に到る貴重な「平山城跡」として保存が望まれている。

史談会から

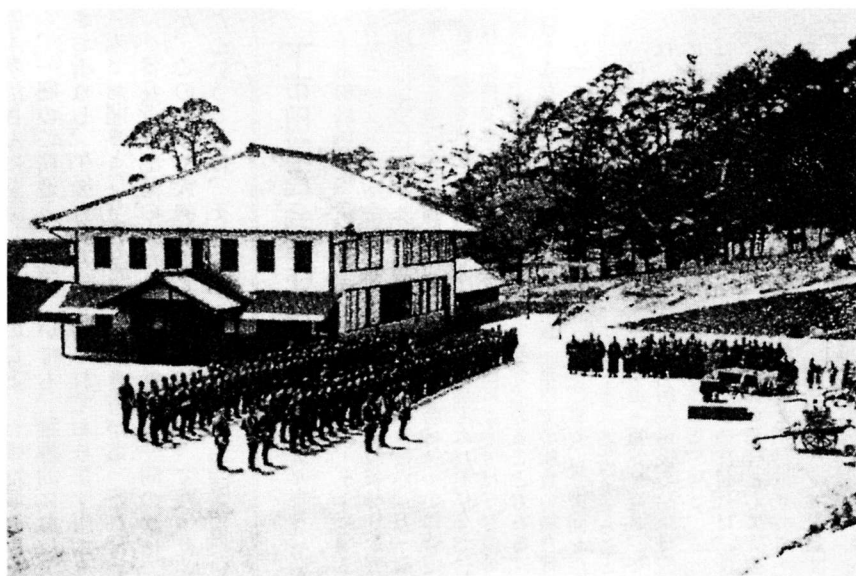
この松岡城も、天正十六年に徳川家康によって改易になる約五百年間、この間松岡氏は、城の構築、安養寺、松源寺の創建、諏訪より諏訪大明神、鎌倉より鶴ヶ

寛延三年（一七五〇）に下市田天竜川に惣兵衛堤防の構築が始まる。この堤防によって開拓された水田は、二百五十町歩余にもなった。この堤防は、大石を乱れ積みにした特殊な方法であ

るが、堅固で二百五十有余年風水害に耐えて来た。明治に入ると学制が制定され、下市田では明治六年に安養寺本堂を借用して下市田訓蒙学校として開校された。

明治十九年学校が焼失し、下市田村民の非常なる努力によって明治二十一年に現存する旧下市田学校が、今

の下市田保育園の庭の南端に建設されたが、いつの時代か現在の位置に移動している。貴重な建造物として管理保存が望まれている。下市田は古来より恵まれた所で、多くの文化財を持ち、史跡も豊富な地域で、多くの古道が走る。その古道を探索するのも又楽しかろうと思う。



下市田学校（明治21年新築）

下市田公民館図書部今昔

図書部 松澤重利



の当たりに浮かんで来る様な日誌が書かれている。幾

昨年、昨年の下市田区民会館大掃除の時、木下館長からダシボール箱を渡された。その中には、明治三十三年から昭和十七年までの図書貸出簿が、二十冊以上入っていた。達筆な毛筆でその時代の生活が目

多くの歴史が詰まった立派な図書貸出簿の中で一際目を引く一冊がある。

それは、昭和二十年の「下市田通俗図書館保管規定」である。終戦時期の物不足を、うかがえる物である。大切に守られてきた下市田図書館の歴史を、おろそかにできないと感じた。しかし

つか紹介する。

「電球一個もなくロースク三本たて、間に合わせた」

今の時代、生活の中心がインター

ネット、パソコン等に

移っている

為か、自ら

進んで図書

館を利用する

人が、少

なくなっ

きている。

今後、時

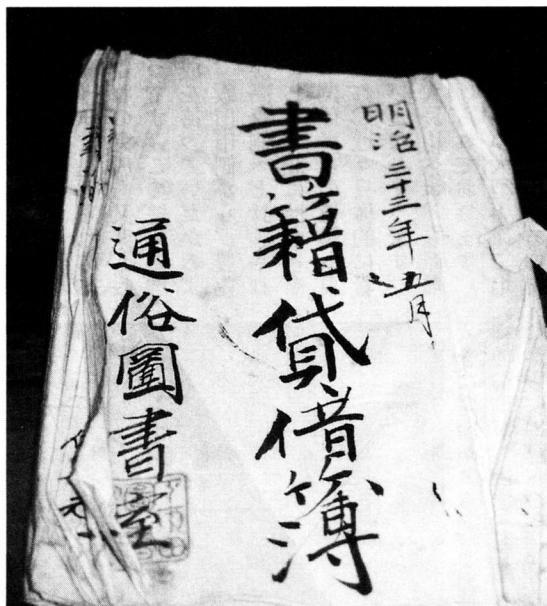
代に合った

図書館のあり方を、考

えていかなければなら

ないと思っ

目がある。それは、昭和二十年の「下市田通俗図書館保管規定」である。終戦時期の物不足を、うかがえる物である。大切に守られてきた下市田図書館の歴史を、おろそかにできないと感じた。しかし



下市田ぐるりウォーキング

体育部 壬生直幸

下市田の史跡めぐりと健康ウォーキングで軽やかな「富本銭」を見た。見学を汗を流そうとウォーキングが、下市田ぐるりウォーキングが十月三十一日(日)に行われた。史談会会員の皆さんと町歴史民俗資料館館長さんのご協力をいただき、五十名余の参加者で三組に分かれ、第一ポイント「武陵地第一号古墳(秋葉塔の塚)」、第二ポイント「町歴史民俗資料館」を見学した。

武陵地第一号古墳は、横穴式円墳で、以前は子供達の遊び場でもあったが、平成七年には町の有形文化財に指定され、飛鳥時代からの贈り物である宝物「富本銭」が出土していたこともあって一躍有名になった。

町歴史民俗資料館では、館長さんより、日本最古の貨幣である「富本銭」について詳しい説

明を受け、真正銘本物の「富本銭」を見た。見学を終え、あたたかい豚汁の待つ下市田区民会館へ足を早めた。



変わり行く黒沢下

五区部落長 小川 真澄

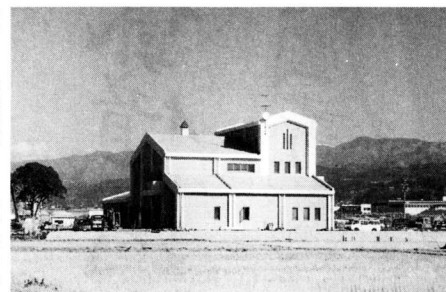
地区内では何・現わし、今夏の共用開始に
んと言いまして
も、武陵地一号
古墳より出土し
り、最後の仕上げ工
が急ピッチで進められてお
り、この完成も又楽しみ
の一つです。この終末処理
場完成を待っていたかのよ
うに、飯田市側から、農免
道路が高森側へと計画され
て来ました。既に地権者を
含め、関係者との協議も煮
詰められ、近々具体的に着
工の運びとなりそうです。

当地区は、国道百五十三
号線を挟んで両側に、戸数
約百五十戸、店舗・事業所
合せて十数ヶ所有り、戸数
人口共年々少しずつ増えて
おります。公民館又育成会
等の各種の行事には、若い
方々、又新しく住居を構え
られた方々共々、
積極的に行事に
参加され、その
つど良い成績を
挙げ、良くと
まった部落です。

又当地区には、その普及
率が文化国家のパロメーター
とも言われる、汚水の処理
施設である終末処理場が、
通称黒沢下と呼ばれている
町の最南端に、その全貌を

既に南大島川へは、立派な
橋が架けられております。
いくつかの大型事業で地
域の様子も変わりつつありま
すが、まだまだ目の前に湯
ヶ洞線、健康センター等、

大きな課題があり関係の皆
様の御理解、御協力を戴き
ながら、地区内の和に努め
少しずつ前へ進めれば、と
思います。



ふるさと祭りテント村から

一区分館長
コミュニティ推進委員 石原 宏一

前日準備中の土砂降りが
一転、ウソのように晴れ上
がった秋空のもと、町の文
化祭・ふるさと祭りの一環
としてコミュニティテン
ト村も参加、下市田区では
十一月十三・十四日、役場
前駐車場にて史談会による
下市田の歴史史料の展示・
説明。分館長・主事及び婦
人ふるさと役員を中心に汁
粉の無料サービスを出店い
たしました。

準備した一五〇〇食分を
三回に分けて無料サービス
を行いました。各五〇
〇食分の汁粉は開店と同
時にお客が殺到、餅を焼
くのが間に合わぬぐらい
の忙しさ、わずか一時間
あまりで品切れとなる盛
況でした。

汁粉を通しての会話の
やりとり、そこには不景
気も政治への不満も一瞬
忘れた空間の流れを感じ
ました。

また史談会の貴重な研
究の発表・説明は富本銭
の静かなブームの中興味
ある人の訪れもあり、郷
土を振り返る心のゆとり



出砂原の歩み

出砂原自治会長 大屋敷清利

出砂原自治会では、平成10年に「出砂原の歩み」を
刊行した。今年は20世紀最後の年、出砂原の歴史は今
世紀に創られた。主な事柄を紹介してみたい。

1715 (正徳5) 6月「未満水」の大災害により大島川
上流から大量の土砂が流れ込み出砂原が出来た。

1894 (明治27) この頃から人家が出来始める。

1897 冬期天竜川に土橋をかけ人馬通行。戸数7、8戸

1900 (明治33) 天竜川に通船が始まる。

1909 初代明神橋完成 (木製吊橋) 有料 人2銭、馬車3銭

1918 (大正7) この頃電灯がつく。戸数19

1923 伊那電鉄市田駅開業。灯籠流し始まる。戸数25

1925 駐在所が出砂原へ移転。商工業進出戸数急増。

1926 (大正15・昭和元) 明照寺 創建される。

1927 出砂原大火16戸全焼。昭和劇場開設。戸数38

1932 2代目明神橋完成。ワーレン式曲弦鋼永久橋

1931 野球グラウンド廃止跡へ天竜社市田工場完成操業。

1939 (昭和14) 市田郵便局が駅前に移転。戸数120

1941 下市田2区から分区し、下市田6区になる。

1961 (昭和36) 三六災により大被害。郵便局美好前へ。

1969 (昭和44) 天竜社市田工場閉鎖 (鼎本社に統合)

1982 (昭和57) 出砂原地区館完成。母子センター閉業。

1986 厚生連下伊那診療所創設。 1984 戸数263

1988 (昭和63) 市田郵便局が吉田へ移転。戸数188

1992 市田駅貨物跡地広げ。 1993 お祭り広場完成。

1996 新明神橋完成。出砂原部落会が自治会に改名。

1999 福祉複合施設の建設計画が始まる。戸数176

戸数の変遷が出砂原の姿を端的に表現。天竜川渡し
架橋の歴史。電車開通、市田駅開業、他交通手段の発
達。商工業の進出、商店街の形成、近年郊外への流れ。
天竜社市田工場の開業により人口増、やがて閉業。公
共施設の進出、一部転出。天竜社跡地へ福祉複合施設
が建設に向けて動き出したことは町内外からの期待が
大きい。

地域の紹介

「おだいじに どうぞ」

3区 矢澤 克浩

下市田の魅力は、なんと力、なんと、いって『市柿』、干柿の好きな私にとっては、寒くなる頃、毎年、本物の味が賞味でき、大変満足しています。

「丈夫に元気に生まれて来いよ」とお腹の子にも向かって気持ちを入れ、この下市田の地で接骨院を開業しています。松川



町から越してきた当時は、家内と二人だった我家も、翌年には長女が生まれ、昨年には長男が生まれと大変にぎやかになりました。私は地域の方に誘っていただき、春祭りの獅子舞に参加させてもらっています。その時の獅子ひきの縄を譲っていただき、

「丈夫に元気に生まれて来いよ」とお腹の子にも向かって気持ちを入れ、この下市田の地で接骨院を開業しています。松川

おかげさまで治りました。皆様から

八年の十月もたおかげで、二人とも安産だったのではないかと思います。

ようこそ下市田へ

夏期には、夜間ソフトボールにも参加させてもらっています。日頃の運動不足の重たい身体にムチを打ってのスポーツですが、太ももの肉ばなれもなんのその、

下三ソフトチームの優勝を

(妻・談)

高森町に来て

4区 岩島 則夫

はじめまして。下市田4区の岩島と申します。私達が高森町に引越して来て早三年がたとうとしています。引越しを考えると、どこに越そうか悩みました。高森町に住むことを決めたのは、家が駅に近いことや、息子の通う高校に近いこと、何よりも高森町そのものが環境がよ

く、とてもすばらしく感じ「こういう町で生活ができたらしいな。」と思ったからでした。越してきたのは一月頃で、その頃はちょうど雪が降っており、積もっていました。しかし、一転してその心配はなくなりました。我が家は、ちょうど日当たりがよく、積もるだろうと思っていた雪が夕方には、ほぼ解けていました。そのせいなのか、うちの猫も冬だというのに、外へ出て元気に遊んでいます。春夏は、それぞれ季節の風が吹き、秋



には裏の山の木々が紅葉し、落ち葉でたき火などして季節にあわせて有意義に過ごしています。

高森町はいろいろ行事があり、町全体が動き、その行事に積極的に取り組んでいて活気のある町、そしてすばらしい町だと思いました。こちらに引越して来た時は、やはり高森の環境に慣れず戸惑うことばかりでしたが、近所の方々の協力のおかげで慣れました。困った

浦安の舞 その二

起源と構成

萩山神社氏子総代 田戸純市

採物(ヒョウギ)は、松扇(片面に絵が書かれていて、美しい房が付いている)。鈴(長さが五尺一・六五メートル)の青赤白黄紫の五色の垂絹を結び付けてあり、頭に剣が付いている。舞姫の装束は白衣、緋袴、白足袋で、髪はすべらかしが原則だが、現今では短髪の為、髷を付けて、飾冠を載せ、祝鬘斗を結ぶ。楽器は、神楽笛、琴、太鼓、笏拍子、筆簾を用いることになっているが、雅楽を演奏する者が居なくなった現在では、録音テープに依って、これに代えて居る。

舞姫の年令は、近時十九才を基準に、各自自治区より選出して頂き、春と秋二回の例大祭に奉仕して頂き、御神霊奉慰をお願いしている。荘厳幽雅な舞に、舞う



随

想



当世若者タメ口トーク

一区 鈴木 美登里



「今度ねー、私の家の近くへ聖子ちゃんが来るんだよ。会いに来ない? 自分までちょっぴりえらくなった気がして気持ちいいかも」と誘ってくれたのは、私の友人の孫娘のK子さんである。

彼女は高校二年生の幾分茶髪気味のハツラツ娘である。

私は少しうろたえながら、「聖子ちゃんって?」と問い返すと、「あのミニババ聖子のことだよ!!」と、ダンプ松本のような声で返事してくれた。オリッピッ

くち

クで活躍した橋本聖子のことかなー、それとも歌手でならした松田聖子のことかなーと二人言をつぶやくと、彼女は「ハ………」と声高に笑って、「おばちゃんは、ミニババよりもっとババ

だったんだ。」と小さな悪口を残して、お尻の見えそうなミニスカートの制服姿でバイクの尻へのっかって坂を下ってカーブの中へ消えて去った。

目をパチクリしているうちに通り過ぎた不可思議なひと時であった。

家族の話をきいて分ったのだが、その二日後に女性大臣の野田聖子が文藝賞の招待者として伊那谷の「神の峯」へくるとのことであった。接待役の彼女がスター気どりで、聖子をスターに祭り上げたダブルスター寸

劇に振りまわされたひと時であったことがわかった。念のため、タメ口トークとは、当世の若者の流行語の一つで、年上の人でも、自分の友人のような口のきき方をするこのようなのである。

知り合いのK子さんの会話がタメ口トークになって

いるのを聴いていて、テレビの中の若者だけではないのだと実感させられた。

同時に、今後の日本語のゆくすえにも一抹の不安を感じたのは、老婆心からか。

長生きして

六区 中谷 いと子



テレビ・ラジオもない頃

私は小学生でした。正月は家毎に日の丸の旗が掲揚され、松の内は親達の小言も少なく、子供達が集まって、遊び暮らしていました。将棋に負けて、悔し涙を流したり、百人一首の得意札を

回想

三区 上沼 義人

私が若い頃、ふと感じたことを振り返ってみたいと思う。

昭和三十八年の夏、ロサンゼルスに小東京と呼ばれている日本人街がある。その街角に立ったとき、此処が外国なのかと一瞬目を凝らすとともに、ある種の安堵を覚えた。商店のカンパ

に横文字に混じって日本語が目に入ったからです。行き交う人波の中に、鏢の長い帽子、洋服に皮靴、一見モダンに見える。しかし、手には杖、腰は曲がって。日系一世の方である。その



で、埃を被っています。大正・昭和・平成と生きて来た辰年生まれの八十四の春が、紀元二千年の春であったのは、幸運だったと思ひ、時計をセットして新しい世紀の訪れを、待ちました。

花火の音に誘われて、庭に出て見ると、何時もと変らぬ星空でした。新婚旅行は宇宙へ、老後は新星で、という夢の実現出来る世紀かと思わせる深い空でした。カタカナ言葉流行の時代です。私も、PPK(ピンピソコリ)で命の終りを迎えたいと祈念して、明かるく楽しく、余生を送りたいと、思っています。

古い漢字は書けませんが、当用漢字は自信があります。辞書を使っていました。電子辞書の古いのを貰った、字が大きくて、手軽で便利です。電卓も使う様になり、ソロバンは押入れ

老婦人を目にした時「生涯を終える時は暈の上で逝きたいのではないだろうか」と云う思いが、頭をかすめた。

又、一緒に働いて居たおばさんが、「今晚息子夫婦が子供を連れて夕食にやってくるから御馳走を作らなければ」と嬉しそうに話してくれた。しかし夕食が済めば帰って行く云う。寂しくはないのだろうか。当時日本では二代、三代の同居が普通だったから。日本の良さはここにあるのかなーとも思った。

三年が過ぎ、横浜の街を眺めた時、日本人街に逆戻りしたような錯覚を覚えた。わずかな間に国外商品のカンパンが上っているとは。外国の経済・文化が日本に上陸、凄く速さで国内に浸透し、なんのちゅうちよもなく受け入れられ我々の生活に溶け込んで来た。

三十数年経った今、当時を振り返る時、ふと感じた事柄が現在言われている核家族・少子化・老人世帯だったのではないだろうか。新しい文化が出て来る中、日本の古い良きものも共存させていけたらと思う。

わたしの作文 ぼくの作文



小学校の思い出

小六 宮沢智美(二区)



智美さん

あと小学校生活も約五十日くらい。
私の、学校生活で印象に残ったことは、いろいろある。
まず一年生では、入学式。私は、知らない人ばかりで友達になれるか不安だった。
でも、いっぱい友達が出来た。
二年生では、夏祭りのおみこし。
私たちは「カタツムリ」のおみこしを作って夏祭りでは、みんなでワイワイ。

三年生では、スケート。
私は、全然まったくすべなくて。でも、少しは、

試合に向けて

小四 坂元亜佑美(四区)

わたしはスポ少で、バレーボールに入っています。今までは、人数が五人しかいなくて、試合に出られませんでした。
だけど、みんなが友だちを集めてくれたので、七人スポ少に入ってくれました。やっと十二人になって、試合にも出られるようになりました。
今までは、サブやパス

練習ばかりだったけど、チーム練習も始まりました。
私は、まだまだ上手ではないので、いつも先生に注意されっぱなしで、おちこむこともあるけど、みんながんばってやっているので、わたしもがんばろうという気持ちになります。
でも、バレーボールはすごく楽しいです。
今は、一月二十三日の試

合に向けて、みんなががんばっています。
わたしは、ふだん大きな声だけど、練習になると、小さな声になってしまうので大きな声を出すように、気をつけたいです。
試合に向けての目標は、
①大きな声を出す。
②きたボールは必ず拾う、です。
試合まであと少ししかないけど、しんけん

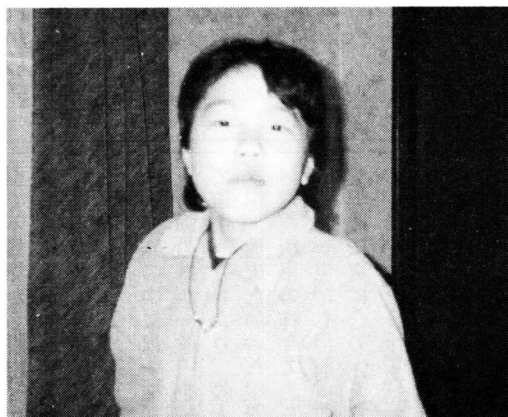


亜佑美さん

楽しかったかなと思った。でもお昼はおいしかった。
四年生ではクラスがえ。私は、低学年の時も三組このクラスも三組。変わらなかった。このクラスも友達が多少出来た。
五年生では、キャンプ。私たちの班は、カレーなどを作って食べた。
とてもおいしかった。
又、キャンプをしたい。
六年生では、修学旅行。国会議事堂、科学技術館、後楽遊園地、上野公園、上野動物園などなど行って、とても楽しかった。
中学生になったら、勉強やクラブなどががんばりたい。
中学校生活が楽しみたい。

試合にむけて

小四 織田汐美(五区)



汐美さん

わたしは、バトミントン部に入っています。バトミントン部は二月二十日に上さで試合があります。
私たちは試合にむけて、いろいろなわざを覚えまして。コーチから、
「ドロップとドライブをやって」と言われ、練習をしたけれど、なかなかうまくできません。六年生の手本を見てどうやったらできるんだろう。もう一度やってみて、ドロップがやっとでき、「やっとなんかできた。」
と思い、今度はドライブの練習をしました。ドライブはすごくむずかしいです。ネットのすれすれをなかなか通らなく、「おかしいな。」
と思いました。じっさいに試合をしなごそのわざをつかってみる事にしました。

今度はできました。
一回戦目は勝ち。二回戦目は負けてしまいました。
私は「今度こそ」と思い、また試合をしたけれどだめでした。どうやったら勝てるんだろう。と考えたら、
「みんなは試合にむけて、いっしょうけんめいどりをくしているんだ。」と思いました。
私もくやしかったので、いっしょうけんめい練習して、試合の時と同じ負けかたをしないようにがんばりたいです。



グループ紹介

みのり会

五区 唐沢愛子

みのり会は、会員八名で、年中忙しい専業農家のエプロン姿の似合う地味なおばさん達の集まりです。

昭和四十七年、中谷婦人会の先輩の方々が、改良普及員さんに依頼して、当時珍しかった、レタスやセロリなどの洋野菜の栽培を指導して頂いたのを契機に、生活改善グループに加入しました。

当時、めまぐるしく変る高度経済成長期で、食生活改善や、古い因習から抜け

夏期は、週三日、冬期は、週一日の販売をして、地域の皆様と交流を温めています。何処も同じで、代金不足により悲しい想いをして

「新鮮で安くて助かります。」との言葉に励まされて十年続ける事ができました。本当に地域の皆様の暖かい御声援と家族の協力のお陰と感謝しています。

会の親睦をはかるために月一回の例会をして、販売所の反省をしたり、簡単な手芸などをして楽しんでいます。文化祭にも出品させて

頂いています。

これからも、地域の皆様喜んで頂ける、良い野菜を提供しながら、心のふれ

下市田古文書研究会

六区 竹内昭一

「古文書研究会」とは、いささか肩ひじ張った名前だが、さりとて、いまさらカタカナの「○○クラブ」と改名もならず、まあ要するに世間一般の同好者の集まりと思っただければ結構。

会の発足は平成五年、当初の会員は紅一点を含めて約十名。現在は十五名にふえた。

発足して間もなく「ホイノ区」の古文書を見せてもらわ

で、お願いしたら許可してくれて、萩山神社の宝蔵庫(当時)を開扉してもらったところ、古文書類の保存状態が悪く、かなりの部分がネズミ達のマイホームと化し、雨もりと相まって判読不可能なもの焼却処分となって昇天した。

それでも、まだたくさんさんの貴重な史料が残



ずれも高齢。若手の養成が急務とは痛感していてもでは、どうしたら……という妙案があるではなし、今のところ史談会の協力で古文書類の分類整理の作業に追われている。

今ある古文書の目録を作っ

「瓦版」のネタになるようなものたぐいなど、興味深いものもある。

もっかのなやみといえは後継者不足。今の会員はい

支館のこれから!

下市田公民館が支館・分館制になり、それぞれの立場での活動を、どう進めたらよいのか課題になっていきます。支館は、下市田分館当時の考え方で進めて行つてよいのかどうか。少しずつでも新しい道を探って行つた方がよいのか……。

下市田には、他所に誇れる「萩の里まつり」の様な大型事業がいくつもありません。それらを大切に考える中で、今後の進むべき道を見出して行きたいものです。

編集後記

あけましておめでとうございいます。

世界中が大きな問題として取り組んだ二〇〇〇年問題も正に「大山鳴動して」といった感じで過ぎ何よりだった。もしもどこかの国の核兵器が誤作動でもしたら大変なことになると思ったのは筆者だけではないと思う。

二〇〇〇年という記念すべき年を迎え、今年こそ長引く不景気から脱出したいものであるが仲々その兆しが見えて来ないようだ。

そんな中で、インターネット関連株の中には一株額面五万円の株が一億円を越えて取引されたたり、殺人・誘拐・放火といった犯罪が日常茶飯事の昨今である。

二十一世紀も目前、これ

これからも、何卒ご協力を!!

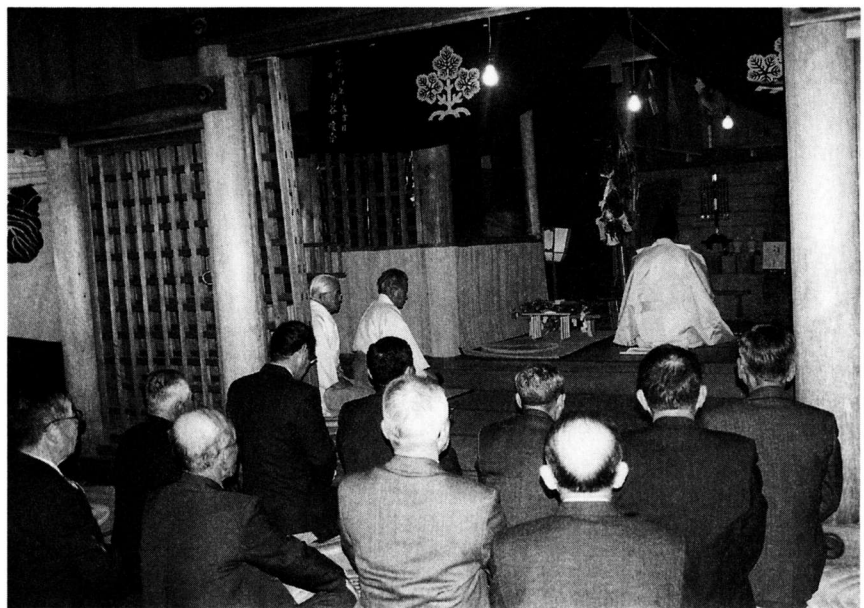
萩山神社失跡宝刀発見祈願祭を斎行

区民の願いをこめて元旦午前二時から

萩山神社氏子総代 田戸純市

昭和四十九年四月頃、萩山神社神宝の刀を研磨に出した件に端を発した、宝刀「長光」(明治二十三年氏子

昭和小川米太郎寄進二振の内)は研磨に出した儘、行方不明で、その存在は今尚解明されな。平成五年(区長



下井武平代)宝刀審議委員が発足、事の解明に、委員各位が懸命献身努力をされた結果、行方は不明で、平成八年十二月(区長富田隆仁代)「萩山神社宝刀問題報告書」が出され、区報にも幾度か此の件に付いて掲載されて、区民各位も周知され、関心を深められたのだが、以来三ヶ年、宝刀の所在は判らず、空しい時間が経過した。そうした中で、区の監査委員松島直人氏より「神社が中心となって、宝刀発見の為の祈願祭を行なうよう望む」との声が掛り、氏子総代が協議の結果、宮司平澤靖史殿にお願いしたところ、快諾諒承され、年改った一月一日午前二時、齋主平澤靖史宮司により、次の各位参列のもと「萩山神社失跡宝刀発見祈願祭」が斎行された。(敬称略)

副 区 長 塩沢 学
代議員会長 大屋敷清利
全 副会長 玉置俊通
監査委員長 栗下 正

全 委 員 松島直人 叶えられるよう
全 委 員 北沢富夫 懇願し、玉串を
公民館長 木下 豊 奉って、神霊に
当番常会長 小川裕道 祈願したことを、
氏子総代 桃澤利一 区民・氏子を始
全 田戸純市 め関係した皆様
全 小川三吉 にご報告を申し
全 林 安一 上げ、発見の端
全 坂牧俊彦 緒になるような
全 浅野 篤 情報がありまし
祝詞は別記(訳文)の通りで、一同寒気深々身を刺す中、低く頭を垂れ、失跡した宝刀「長光」の発見が

萩山神社失跡宝刀

発見祈願祭祝詞(訳文)

宮司 平澤靖史

のではとの、

言葉に出すも恐れ多い、萩山神社の大神様の御前に、宮司平澤靖史が恐れ憚り慎んで申し上げます。
何時の頃からか、此の萩山神社の宝物として、大変に尊い刀一振がありました。が、或る頃に見たと言うのを最後に筋道立てる事無しに人より人に知らぬ間に突然大神様の御前より、跡形も無く消え去りました。時の宮島宮司を始めとして、区長、様々な立場の人等が、何処へ行ってしまったのか皆目見当も付かず、唯、風の便りに、こんな処にある

大神様の神聖なる御威光をお受け致しまして、御前に関係者一同が、鳥の如く頭を低くして集まり、鹿の様に恭々しく膝を折り正座して、鶏が頭を水中に突き入るが如く、頭を折り恭々しく拝礼して、お願い申す様を確かに見届けくださいまして、若しその在処、又刀が出ましたら、空飛ぶ鳥も「此処に在るよ」と人々に告げさせるべく、御神力をもって見護り下さいますように、大神様の為のお供物をお供えしまして、お祈りお願い申し上げます。

